

金丸弘美・著

里山産業論

無明舎出版舎主
あんばいこう

書評



国の政策であり、各自治体が推進する「地方総合戦略」。本書はそのテキストと、この「食」についてよい内容の「食」による新産業論だ。副題にあるように、地域を元気にして社会を変える最重要産業は「食」にある。人材を育て、経済を回し、地域を創る方法は「食の戦略」にこそある、というのが本書の要諦だ。

各地の事例を自らの足で歩いてるのが著者の強みだが、箱物行政や派手なお祭りイベントなど、将来的な視野と展望に欠けた出来事を痛烈に批判することから本書は始まる。2章、3章は著者が取材を続けているイタリアとフランスの「食の戦略」の実践事例。4章では地域文化と経済を結び試みを紹介し、5章は地域づくりの実践リポート。6章は「食の戦略」が社会保障を変える」と題し、より巨視的な視点から「食」にスポットを当てて

「食」が人や地域づくりの基

- ◇出版＝角川新書
- ◇価格＝800円
- ◇副題＝「食の戦略」が六次産業を超える

いる。地方性を徹底し、明確化することで初めて地域の個性が生まれる。小さくとも継続的な産業を生み出す重要性を説き、グローバル化の中でこそローカルが生き、ローカルの土壌が人を育てる、と著者は言う。全体の目次構成の中で、

2章と3章の外国の事例が異質だ。実はこの外国の事例が本書の「本流」といい、2章の「食の戦略」ーイタリア編」では、世界遺産と街並みと集落の食を連携させ観光化に成功した事例がルポされている。3章の「食の戦略」ーフランス編」では、「味覚の講座」で子どもの表現力・郷土愛を育み、輸出力を強化する戦略が紹介されている。地域全体で6次産業化を目指す日本の山間地のモデルとして、あるいは「地方創生」と「町づくり」のテキストとして、この外国の「食の戦略」の事例はインパクトがある。

鹿と植物について分く解説している一冊だ。える影響は多面的で、植なく動物にまで及んでうことも紹介する。そ

シカ問題



シカの飼い

鹿被害の解決に向けと資源活用に関する事書の登場だ。「良質な角を得る」ためと副題うに、資源としての利の方法を示している。本書ではまず、現在策の問題点や課題を浮する。防止に向けた有して期待されている「(捕獲・導入した鹿の提起し、丸ごと地域資有効活用するための方



国家戦略特区の正体

郭洋春・著

環太平洋連携協定(TPP)をはじめ、安倍政権による新自由主義の動きが止まらない。魔の手は農地にまで及

る。リースだけでない、企業農地所有騒動の中での発刊である。兵庫県養父市に限定した動きとはいえ、通底には成長偏重主義の「アベノミクス」だ。

規制緩和と貿易自由化を

が肝いりで規制緩和を進